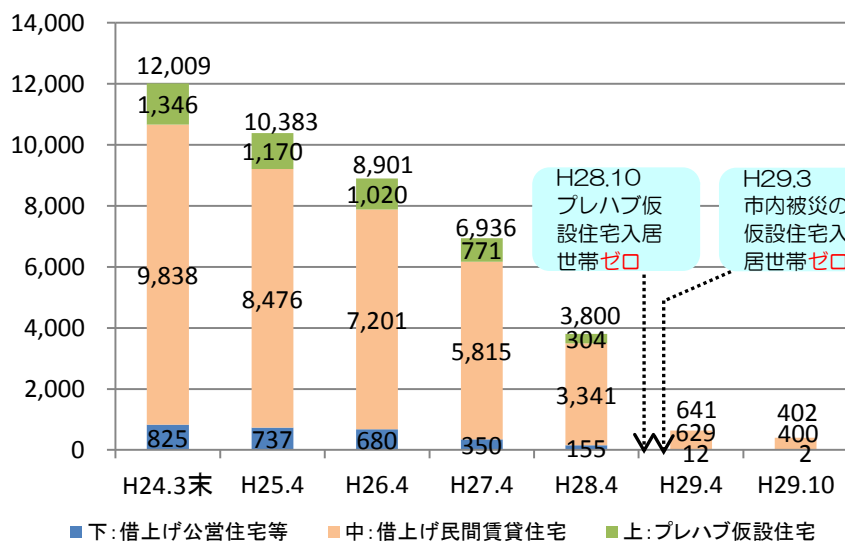




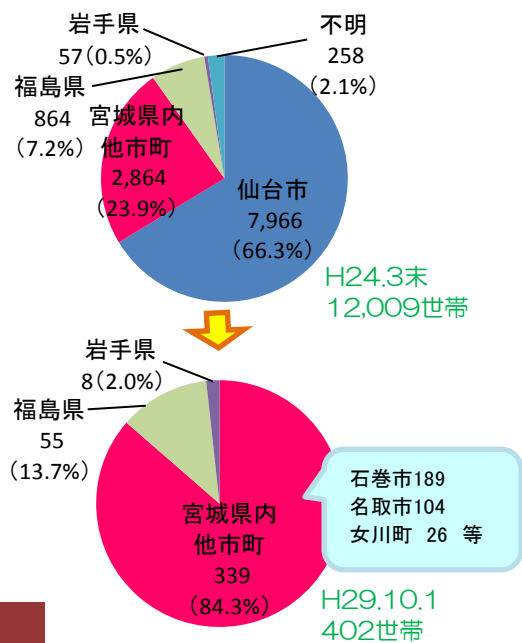
入居世帯の推移と震災時の居住地別入居状況

- 市内の仮設住宅入居世帯は402世帯となり、ピーク時（平成24年3月末）の3.3%まで減少しています。
- 市内で被災された世帯は平成29年3月末までに全て再建され、仮設住宅には市外で被災された世帯のみが入居されています。
- プレハブ仮設住宅は平成29年3月末までに全て解体し、市内の仮設住宅入居世帯は全て、借上げ民間賃貸住宅等の「みなし仮設住宅」に入居されています。

入居世帯の推移



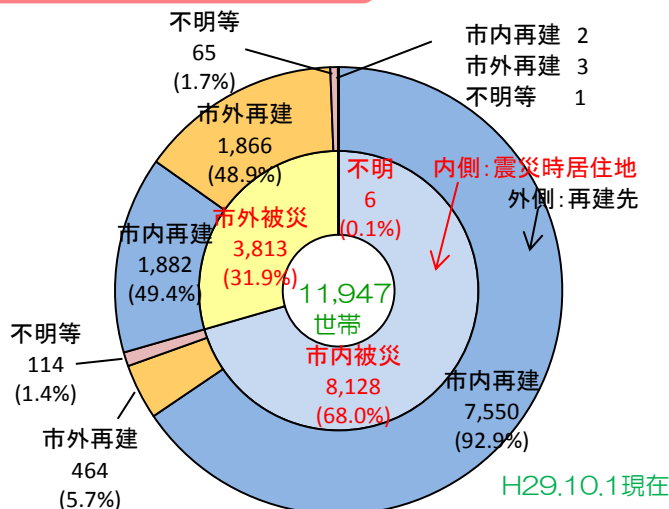
震災時の居住地別入居状況



住まいの再建

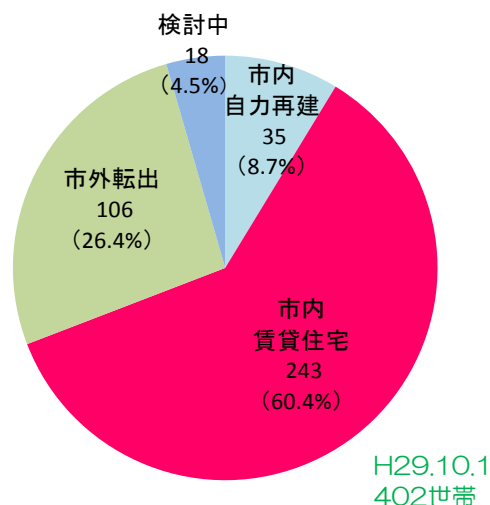
- これまで再建された世帯のうち、約79%の世帯が仙台市内で再建されています。（市内被災世帯の約93%、市外被災世帯の約49%が仙台市内で再建）
- 仮設住宅に入居されている世帯のうち、約69%の世帯が仙台市内での再建を希望されています。

震災時の居住地別再建状況



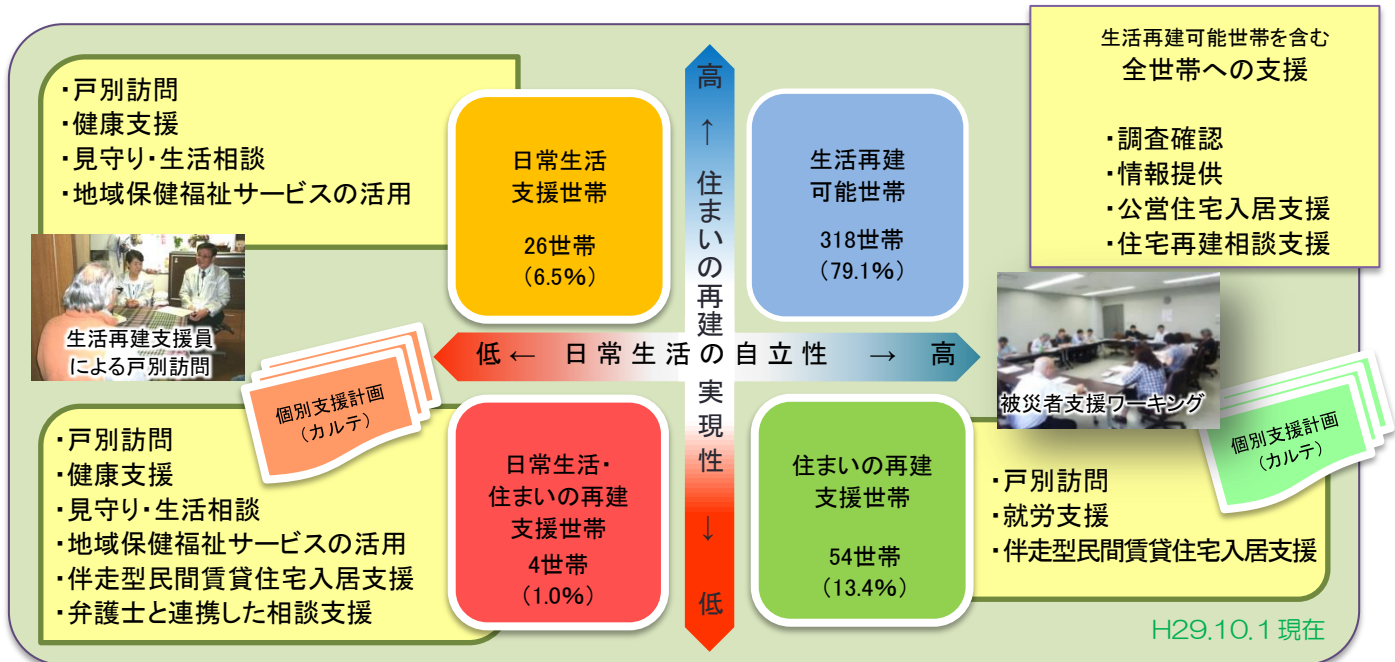
※H24.3末(ピーク時)以前に再建した世帯を含む。

仮設住宅入居世帯の再建方針



入居世帯への支援

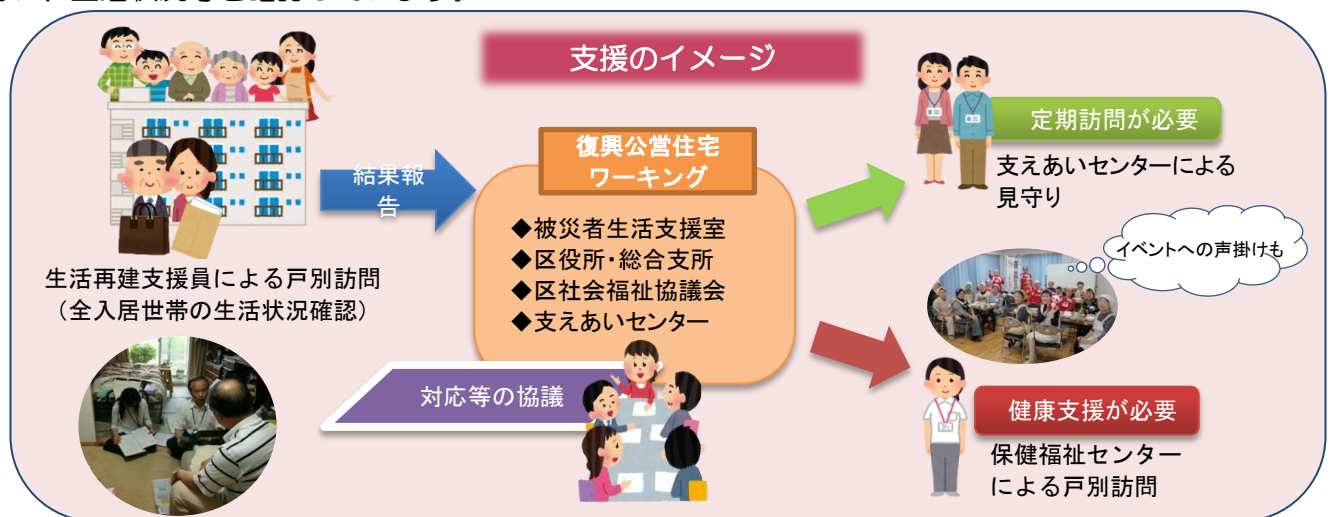
新たな生活の場へ供与期間内に確実に移行できるよう、戸別訪問等を通じて課題を抱える世帯に対する移行支援に取り組んでいます。



● 復興公営住宅に入居された方々の孤立防止に取り組んでいます！（その1） ●

仙台市では、復興公営住宅における孤立防止策の一環として、各世帯への戸別訪問を行っています。入居当初の戸別訪問では、生活再建支援員（シルバー人材センター）が新たなお住まいでの生活状況やご家族の健康状態等を個々にお伺いし、聞き取った情報を区役所や社会福祉協議会と共有するとともに、必要に応じて保健師による健康支援や、支えあいセンターによる定期的な見守りなどにつなげています。

また、入居されてから数年が経過すると、時間の経過とともに顕在化するといわれる心身の健康状態の悪化や、世帯状況の変化などによる社会的孤立等が懸念されます。このため、当初の訪問で特別な支援を必要としなかった世帯のうち、高齢世帯や単身世帯等を対象に生活再建支援員が再度の戸別訪問を行い、生活状況等を確認しています。



また、こうした個々の世帯への支援に加え、住民同士の支えあい活動の基盤となるコミュニティづくりや、町内会活動の活性化への支援にも取り組んでいます。